

雪の出力路

ナウ



雪出羽道

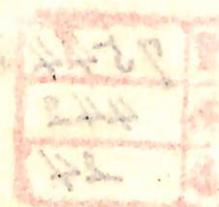
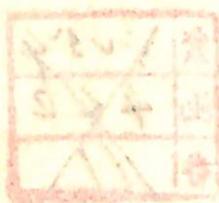
平鹿郡

十四



卷之二

平義學 十四



平義學

十四

平廣郡

十四卷止

雲居山道

○山川莊

也志山

あくら山

やなぎ楠

山の木たが

仰(おさ)わ

三澤

山の木たが

あらき山

大河の木江

木で木の木

辛辰郡部

山内郷

土渕邑

平野津邑

筏邑

南郷邑

三ツ星又邑

黒津邑

小松竹邑

大松川邑

丹波開邑九止

一 二 三 四 五 六 七 八

○山內總中

稿免

板橋 地橋 筵橋

合六拾五橋

以小橋三十七

大橋二

喬李

家貢

五百四拾戶

人數

三千六百九十九人

外三人座當坊

馬

五百九十五足

牛

四拾六足

三千足武道是存外餘數

里長

勘定郎
吉平

横手山内郷九箇村郷

○横手山内郷九箇村郷
○山内サムライ、生羽奥陸イヒタケミナリ、いと多キ安寄ミツミ、書紀カハタ、寢苗サハナ、あを奈ミタコト、
詔ミマツタ、伊ふみミサシ、奥山サトヨシの便俗ミツコト、辭ミツコト、而て山内サムライ、あを雅ミタコト、
あ、故ミサシ、而ミサシ、皇都ミサシ人の宮サラナヘ、苗ミツミ、而ミサシ、紀ミツミ、作ミツミ、給ミツミ、りと御ミサシ、れたりを
來ミジコ、かと書ミツミ、も之ミツミ、あける書記ミツミ、と、御ミサシ、生ミサシ、山内サムライと字ミサシ、考ミサシ、稱ミサシ、
村ミサシ、來ミジコ、是ミツミ、秋ミツミ、而ミサシ、五十自山内サムライ、河ミサシ、室ミサシ、而ミサシ、岩見山内サムライ、而ミサシ、
雄勝ミサシ、而ミサシ、吉野湯ミサシ、次ミサシ、田子内ミサシ、岩升ミサシ、手ミサシ、金ミサシ、椿堂ミサシ、檜山ミサシ、中ミサシ、猿ミサシ、
ケ岸ミサシ、内ミサシ、ちと、少ミサシ、山内ミサシ、村ミサシ、と、山内ミサシ、と、称ミサシ、か、而ミサシ、中國ミサシ、
山家ミサシ、と、も、あら、ちと、如ミサシ、此、平廣ミサシ、而ミサシ、土湖ミサシ、平野ミサシ、源、代ミサシ、南江ミサシ、
三又ミサシ、黑沢ミサシ、小松ミサシ、大松ミサシ、舟渡ミサシ、而ミサシ、大、木ミサシ、と、す、一、横手ミサシ、
と、ひつ、之、雄勝ミサシ、而ミサシ、山内ミサシ、村ミサシ、此、平廣ミサシ、而ミサシ、山内ミサシ、村ミサシ、南江ミサシ

あたゞみあ背セナカアハヤ舍サカシくうひに生オウサナツイ此ミナ山内ミナ極カニヒらハ至ミナシ陸奥ミナ玉ミナタマ
南ミナ郊ミナシ銭ミナシ至ミナシトミナシす。享保ヨウボウ那造記ミナシ云ミナシ山内ミナシ村名ミナシと鳴ミナシニ雨ミナシ
印九村ミナシ九本治ミナシ土渉ミナシ肝煎ミナシ一人立ミナシ預置ミナシ云ミナシ々ミナシ人ミナシを其ミナシ頃ミナシ保ミナシ、
長ミナシら小田ミナシ市ミナシ耶ミナシ若局ミナシとつミナシ此ミナシ小田ミナシ山ミナシ小野ミナシ遠江ミナシ守道ミナシ、
す。時ミナシせミナシ里正ミノイの職ミナシをかミナシりし家ミナシて其世ミナシ里長ミナシハ銭ミナシ合ミナシ金ミナシ、
たる日ミナシのに俗ミナシと呼ミナシ家ミナシを横ミナシみの棚廊ミナシ造ミナシ當ミナシの時ミナシ良材ミナシの銭ミナシ、
材ミナシを給ミナシそうちく大ミナシやミナシき位ミナシす。家ミナシ爲ミナシて其ミナシ居ミナシ是ミナシたるミナシとす。
さあすミナシ行ミナシ人の後ミナシをくらひきりゆきミナシと土垣ミナシの位ミナシ居ミナシす。古宇ミナシあはる、
八官ヤクシヤ舍ミナシを成ミナシりて此官舍ミナシす時ミナシの保正ミナシ住ミナシて公ミナシ事ミナシ勤ミナシ此家ミナシ、
柱壁カジヨ代ミナシの板ミナシをこどハ銭鎰ミナシをもて前位ミナシなづらく古ミナシマメオミナシとす。近ミナシ世ミナシ制ミナシ、
作ツキの実鉢ミナシ裏鏡ミナシで在ミナシすがなる事ミナシあらへり。是ミナシに此官舍ミナシす所ミナシの陽ミナシ隅ミナシ。

主御ミナシ御廻ミナシ近ミナシ大ミナシ木ミナシ伐ミナシ根ミナシ一本ミナシ焚ミナシてす。某ミナシの木ミナシかミナシ木ミナシと問ミナシハ
内ミナシ中ミナシ片柏アスナラフと少ミナシい。三四百ミナシ木ミナシ絆ミナシなむゆめりミナシと大ミナシ木ミナシ木ミナシ、
古木ミナシ有ミナシる貧家ミナシ主ミナシたまミナシかミナシ小田ミナシ山ミナシが住ミナシつゝら。售ミナシてそらミナシ金ミナシ、
鷹野ミナシ山ミナシの楊柳ミナシと麻ミナシと古木ミナシの悔ミナシ八千ミナシ文ミナシ一世ミナシかけて諸ミナシ候ミナシ。

四木邑

家ミナシ今ミナシ古ミナシ十三軒

大澤村ミナシ横ミナシの大柳ミナシの木ミナシ山内ミナシの大柳ミナシ水陰ミナシ草葉ミナシと山内ミナシ四木ミナシ、
高岸ミナシ有ミナシ金鉢ケボナレ梨ミナシの大木ミナシ九尺ミナシの根ミナシ掘ミナシ草ミナシ板ミナシ橋ミナシ。此橋ミナシ山内ミナシ、
木ミナシ入ミナシ山口ミナシ境ミナシにて西ミナシ有ミナシ。一地ミナシを美作ミナシや久米ミナシ秋山ミナシましく、
主ミナシ多ミナシ所ミナシ少ミナシす。此生細ミナシの雄勝ミナシが小屋ミナシ有ミナシ。秋田ミナシ節ミナシ四見ミナシ、
主ミナシ風ミナシ多ミナシす。此生細ミナシの木ミナシ方ミナシ言ミナシて材ミナシ木ミナシ成ミナシり。事ミナシ、
是ミナシを考ミナシす。此生細ミナシの木ミナシ方ミナシ言ミナシて材ミナシ木ミナシ成ミナシり。事ミナシ、

と呼びぬちや秋田郡の太平をあみたひらみをもいて太平とハシタサ
トキテモトヤ古鹿水のむりより大江の駕の銘ナリ大江平といひ駒東
ツヨ其口癖モセ蛇山也太平山と字ニテ名稱て拂き太平と作リルを
今世うけて充平とふり姓ニシテ少ゆニ此木材ナリ古木とあすアキ
ラリハ弱木也木やあけ木有リ此木ノ木のまひてモアシキモ地名と称
是木を四木と作リて材の名とハナ木と材民ニキ弱柏木トモリアシキ
あめさな木と稱すキハツキとけやラキのけちめキムミナモドケ松
タガキトモリナシテ此四木邑の東南ニ中リて古城跡也
其城主ハラミノアツメセ店倒スルマヌク知能人有シムナカヤ
○熊野社祭日四月十五日八月十五日ナリあやく市郎馬鹿

奉^{イウキマツ}ナリ今後平右衛門^ゲ斎主ナリ

○稻荷明神祭日前半同じ世小田島市郎馬鹿^{ハラミ}ナリシ御神
あらハラシジカウモト社ノ木松^{マゼス}三熊野社の内ニ難廣^{スラ}とシモト

○土済邑

○此稿^{ハシタ}本仰^{ハシタ}あれハ山内^{ハシタ}の筆^{ハシタ}、創^{ハシタ}め書^{ハシタ}べか^{ハシタ}ハ血木邑^{ハシタ}ハ大洪^{ハシタ}の
山口^{ハシタ}、村始^{ハシタ}の血木^{ハシタ}を^{ハシタ}書^{ハシタ}つ^{ハシタ}きて土済^{ハシタ}と^{ハシタ}シテ^{ハシタ}在^{ハシタ}るを^{ハシタ}セ^{ハシタ}、
河邊^{ハシタ}の三内^{ハシタ}、^{ハシタ}山内^{ハシタ}、^{ハシタ}土済^{ハシタ}、^{ハシタ}陸奥^{ハシタ}、^{ハシタ}津輕^{ハシタ}、^{ハシタ}土済川^{ハシタ}、^{ハシタ}
小川^{ハシタ}、^{ハシタ}此川溝^{ハシタ}の如^{ハシタ}小流^{ハシタ}、^{ハシタ}下玉^{ハシタ}、^{ハシタ}玉^{ハシタ}、^{ハシタ}庵^{ハシタ}、^{ハシタ}墨^{ハシタ}、^{ハシタ}内^{ハシタ}、^{ハシタ}ヒヨリ^{ハシタ}明王^{ハシタ}
總^{ハシタ}昌^{ハシタ}也^{ハシタ}世^{ハシタ}津輕石^{ハシタ}と^{ハシタ}また今別浦^{ハシタ}の宝^{ハシタ}石^{ハシタ}土^{ハシタ}済^{ハシタ}の庵^{ハシタ}
あり其昌古^{ハシタ}と^{ハシタ}方^{ハシタ}此土済邑^{ハシタ}玉^{ハシタ}庵^{ハシタ}野菜^{ハシタ}を作^{ハシタ}と^{ハシタ}葉^{ハシタ}と^{ハシタ}薑^{ハシタ}
年房胡蘿蔔^{ハシタ}丹^{ハシタ}百合^{ハシタ}蔓菁^{ハシタ}蓋^{ハシタ}いと^{ハシタ}ド^{ハシタ}紫芋^{ハシタ}子^{ハシタ}里芋^{ハシタ}また藍烟^{ハシタ}

草を作りぬあらは柳葉、蘿椿葉、葉たをこかくもかくもと
ひよきそんとたる者あふくねがよくれと伊豆屋で横手の市みい
さく事久保田をち朝市みいやまけむり

○茂竹邑 家貞古九軒
今八戸

○茂竹と雅言ミヤジコトの本人の実名とて重武ナリタまと云ひて茂竹と作
おもむ阿仁サウと特よ寄延ヨリハシとつ村クマ頼信ヨシヒトの子と住つて又と
て此落休寺の跡ヨシハシと云ふと古寺山と云ふといひて此落休寺と云ふと
○山神社 茂竹山立碑マセり祭日 四月十一日 善主 五郎馬門
十一月廿日

○根子邑

家貞古ニ軒
今七戸

○此村の道のりたる小溝の端ハタケと大よ年子赤松アカマツ近チカロく
此松マツ三とせらハタケと植シマツたる所ハタケに傳タキて椎シバ木シバキとしも思モロコシうと青

萬マツ、トスルとあはむるや林リの墨モクに仰アガム事トおもと平底ヒラシ山ヤマ
根子村ルコ子ルコとてと併勢アブシテ文通モンブをひくこと贈ツクシ赤アカ事ト高タカ
ト子コノ此松マツ靈魂ミツマせまうてニとせらハタケと旅リ存シマツよやまことと
ゆゑあトツ木キあキわカ童コノハ小枝コノハ一イチを折ハサウ人ヒトとトすト南ミナ北ヒタチ
内トリツ十トツ狐キツネ木キせまシマツてせシマツ赤アカ松マツ老シテ十トツ狐キツネのお松マツとてはシテ贈
うるすアカルいと物語モノガタリ之シテあアカル南ミナ部ヒタチの根子ルコ御ミサ照ミタケ井イ筑シマツ
前マサニ某コトハとよトシる家ルコとトシ此山ヒタチヤマとトシて住シマツ南ミナ部ヒタチ
の御ミサ等コトハとトシて村ルコと呼シマツおアカル在シマツ小筑シマツ前マサニと呼シマツて家ルコと呼シマツ
子コノ塙ハタケを廻ハタケと家ルコ富ミサ照ミタケ井イ筑シマツ前マサニと呼シマツて家ルコと呼シマツ井イ六ロク之シテとトシ持シマツ一イチ武具調度ムツキヂドウとトシまうせてなシテ雪シキ村ハタケとトシ山水ミタケとトシ也シテ

○小田邑

家貞今九軒

○小田山の齋を住めば村の名を嘗めず此あたまは石動山の處にと
シテリトハシムシラヒタシマシ

○穢福神社 此神神よねまことすれ、腰穢儀よエミテアガル
穢セカラガリうち群れて生れる神社にて此をくふくとみれりと
多リ富福幡吹をとり作りす、旗吹清水りと手引

○此社の祭日四月十五日十二月十五日 神主 長太郎

○愛宕社 祭日十二月二十一日 神主 勘定門

下タ邑

家真

古十八軒
今十八戸

○此下タ邑より虫矢村より近く村中ち銀店の大木周辺ノ神木立ヨリ
○棚戸明神社 棚戸より生す木戸明神ノヨリ神之泥鉢より木戸
五郎吉戸とて狐の社御りまた生ど處ヨリ木戸神おせ此下タ邑

○磨す木戸明神と大黒天と大波而神 祭日十二月五日 神作石窟
此村生餅田と云々多生家一戸均リ町田の小石窓のよし田四ノ此生も穴キ
ツカサノ舟場の差入一戸也 古此ノ廣て矢向峠の山脚也有る
舟宿也と及を船場の字今續て有りタラモウとおり有り乍ら其事
写一差入八ヶ家也、洪れ子川岸崩れで虎八ヶ宿もつゝ引退す有る
其家有其楓也うつはれて大蛇すうもとく神木なりか在さう倒
れ生すよその大蛇ノ皮もその皮も又生々身と化て大蛇た
ク生す小蛇一尾川をよこせれて生れが生すが洪水事ある事アリと
かたう此下タ邑の棚戸村の有語事すく地の底を以て一之處

○虫内是

家真今十八戸

○内々古蝦夷辭の年斯坦奈韋トニリナキ
シリモ城庚國ナシテスミノアリ斯坦山
シテ城表也住居ナリテラ岩瀬是ト通シ歲橋行

○板井澤是

家貞吉ナセ軒

○蝶夷洲

イタニギハトナリサカアサヒモ板井決板井田石

处モ板井の清水也此板井はモ歲橋カレ下リ過往未セ

○水神社

山陰ナモセリ參日四月十一月十一日齋主吉右衛門

○山神社

山比良ナモセリ參日四月十一月十一日齋主銀守諸家

○山願邑

家貞草軒
今九戸

○此岩瀬トカヘタコロトモクナニナシテモ歲橋カレナリ

○稻荷明神社萱野之内庄
祭日十一月廿二日齋主房三郎

○鶴池此池岩瀬是トニ東南ト有鳥打長根小アリ此下ハ鳥坂
少く要裏坂ミシミ此池の宮カ往復ナ有リ鶴の池のまな石モ和田
吉^{ヨシ}治^{ヨシ}トモリムアリ和田の裏トモル城主アリツマスノトモリ坂ト要
塞の名ナシテ此池の廣^{アツ}東西五石間南北三石間斗^{アツ}メテメハ小松
モト生ひ乍リ岸影^{アシエイ}もく遠近モ山モ^{アシ}山モ^{アシ}アリ春モ
櫻モ^{アシ}秋モ^{アシ}紅葉モ^{アシ}モ^{アシ}アリ今ハ木枯^{アシ}木^{アシ}春^{アシ}春^{アシ}アリ
度^{アシ}アリ阿^{アシ}ねと^{アシ}お^{アシ}を^{アシ}處^{アシ}キ^{アシ}ム^{アシ}春^{アシ}ス^{アシ}景^{アシ}ス^{アシ}アリ
代^{アシ}アリ^{アシ}鶴の泥水モ^{アシ}下^{アシ}のくちホ^{アシ}書^{アシ}アリ^{アシ}奥^{アシ}トカ^{アシ}の
雛^{アシ}鳥^{アシ}またモヤツリ射^{アシ}アリ^{アシ}トモ

○平石邑

家貞吉八軒

○此平石邑内別邑^{アシ}行^{アシ}爲橋^{アシ}河^{アシ}此^{アシ}アリ又^{アシ}アリ山窓

山神社

癸丑日四月十二日十二月十三日
齋主 沢田周門

○矢向峰ヤマケと小山シロヤマと高タカ山ヤマ峰マツケ前マサミ峰シロキ白木シロキ峰ヤマケ此山ヤマケ内ナカニ三ミツの峰ヤマケある是シテが中ミハ一イチの峰ヤマケに矢向ヤマケ手ミハ酌マサニああアアうウそ矢祭ヤマツキは
松前マツマサ矢向ヤマケ前マサミ箭ヤマリ峰シロキ峰ヤマケと峰シロキ神ヤマツキ庵ヤマツキ此山ヤマケを
おのれオノレ負イカシムたる鞍イカシムの矢ヤマリ筋ヨコめメて此神ヤマツキ箭ヤマリ奉マサニと
舟ボウ此山ヤマケ農アマニ所シテ通タマリ蝦夷エホトドク人ヒト此峰ヤマケうちわウチワいすイスといタマり美射タマリ
を立ちて手タマリ事タマリまた常タガシマド下タマリ通タマリとくに穢タマリえされ冲タマリ中タマリとされ此神ヤマツキ遠タマリ
立タマリて奉マサニさりとれ並タマリ前ヤマケ山ヤマツキとい並タマリハ矢ヤマリ萬ヤマリとタマリ水タマリ此事タマリ
矢ヤマリ峰ヤマケ不タマリ事タマリ雅言ヨシケ本タマリやタマリあくとゆて蝦夷エホトドク人ヒト極タマリ居タマリしタマリと僕タマリ
はれたる事タマリ國タマリ之タマリ今タマリ蝦夷エホトドク威タマリ矢ヤマリ祭ヤマツキしタマリの酒タマリ是タマリ

きおりハ越後がとタマリ矢吹タマリとタマリ御ミミシ錦鹿ヤマキシ矢草ヤマハラ御エエあタマリとタマリよタマリ本タマリ
矢向ヤマケ轉語タマリ此山ヤマツキ内タマリ薦タマリの矢ヤマリ奉マサニてうちみれタマリの方タマリ雲タマリもタマリと震タマリ
五枚ヤマリとタマリ黄金カネあり大判シロ五枚ヤマリ料ヨガシの黄金カネを一日タマリ掘タマリ出タマリとタマリあらタマリを凡タマリ中タマリ

○内タマリ御エエ

家貟タマリ古タマリ車タマリ

○内タマリ御エエ近タマリ所タマリ田浦タマリ已タマリ有タマリもタマリと内タマリ御エエとタマリ内タマリ御エエとタマリ有タマリもタマリい
つありタマリ内タマリ御エエとタマリ漁人タマリかタマリと大きタマリ龜タマリを守タマリ此タマリ背タマリ鱗タマリ一枚タマリ
落タマリて舟形カタチ四タマリ枚タマリと名づけタマリおのう家タマリ養タマリあタマリとタマリ水タマリをあタマリと
出タマリ此タマリ龜タマリとタマリ内タマリ御エエとタマリ三ミツとせタマリとタマリ此タマリ行タマリ方タマリ知タマリ
れタマリまたよタマリとタマリ得タマリしとタマリ所タマリ田浦タマリ大タマリ溝タマリをかのタマリ一タマリ七タマリ丈タマリの龜タマリ
とタマリ其タマリ龜タマリ口タマリ人形タマリの吐タマリとタマリ内タマリ御エエとタマリ湖タマリ
入りタマリ小タマリを内タマリ御エエとタマリ浦タマリ古タマリ老タマリの物語タマリせタマリ事タマリ華タマリ西タマリ省タマリ物タマリ

詰本木見三軒ありし事より此は湯屋成橋あり近隣の村二軒通之

○二瀬邑

○越後玉山三軒と云ふて名づけ此處辨多の宿すとて旅人此處に至
此後ニツカ示サ三軒古より外もよしといふ事保郡邑記ニ馬家貟三軒
其人を一戸有此處すと土間一室ト極也

○惣家貟

○人貟五百七十四人

○馬貟



大沢郷

長土呂口

矢櫃

大柳

山内の大柳寺

村塙

山内郷山口土湖邑

甲 大橋寺

亘立間横大寺
水際高丈斗

乙

大沢の柳周圍九丈
全鉤李木

丙 周圍八尺

丁

四木山
四木支御之

四木山山名と國山名と
あり乃山名かあ山名母山名

山寺に大兎山名が兎山名あり

小兎山名に事山名と大兎山名

そ山名と九金山名、血山名をの

そ山名の血山名子塩山名と巣山名盛山名

て小松山名をう山名しと木山名

そ山名ひりく山名とば山名て

今山名和尚山名子膳山名と

す山名鳥山名よめ山名いす

こ山名その手山名是山名

て華山名の詩山名の

四木山名の山山名す

雪山名を根山名とて

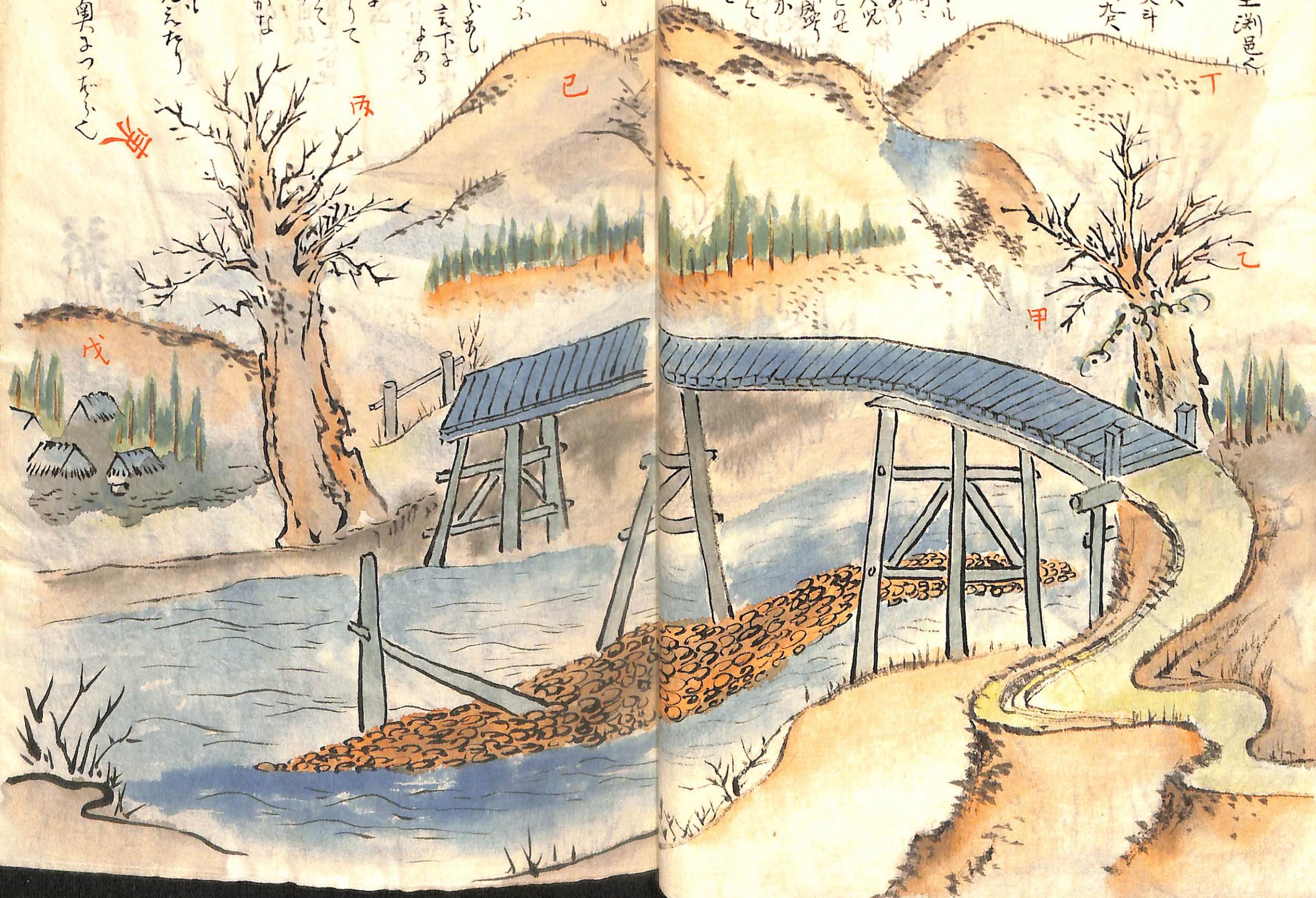
生山名立山名木山名かな

本山名木山名山山名す

足山名走山名る

已 大楠山

古城跡山名此車山名をは奥山名よつをふ山名く



卷

土潤郡

甲 矢向峰、眺望

平野沢郷

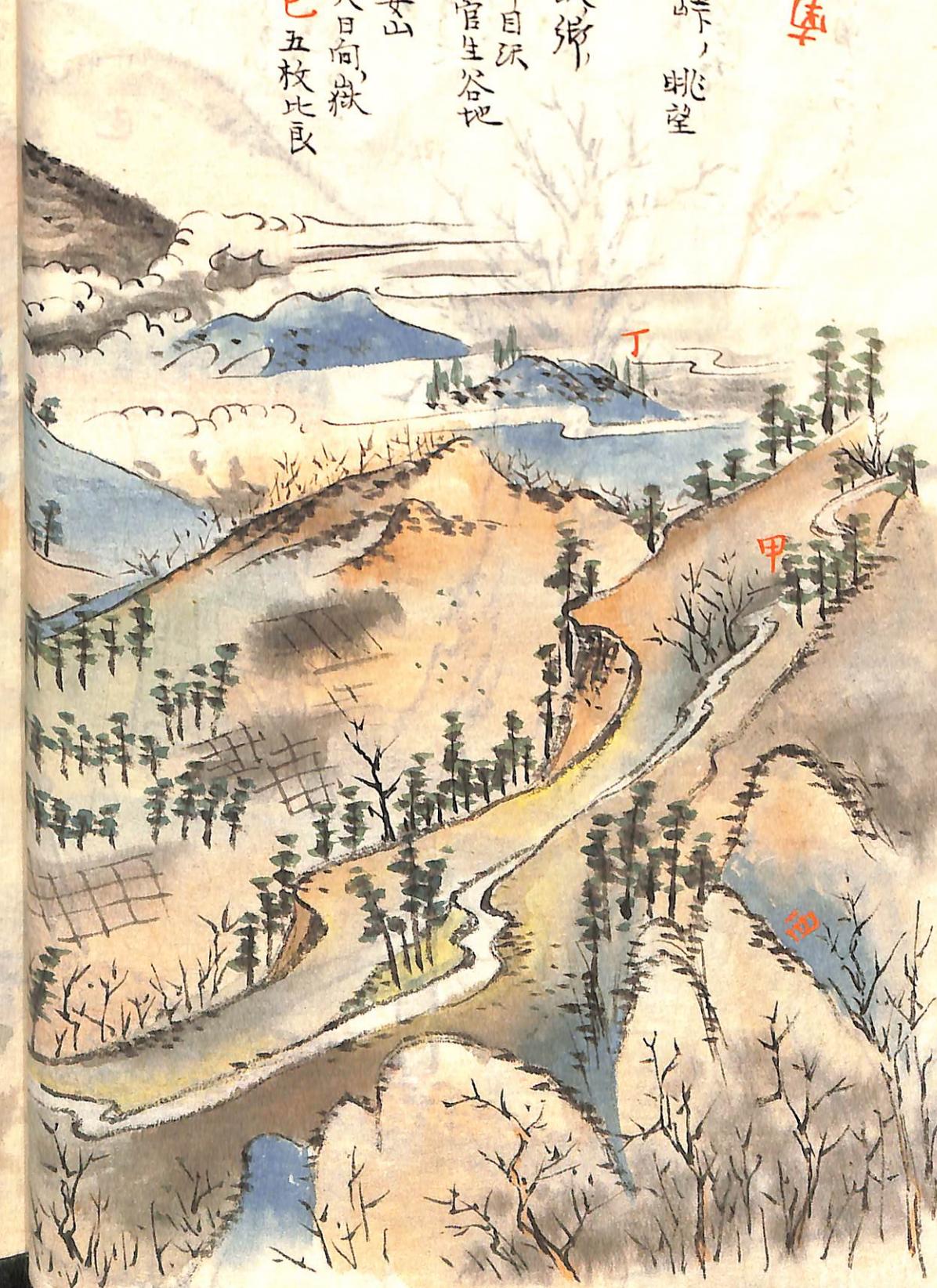
乙 岩野目沢

丙 菅生谷地

丁 藍波山

戊 大日向、嶽

己 五枚比良



土潤郡

卷

箭祭峠ハ

考本行ニ
つぞうす

戊

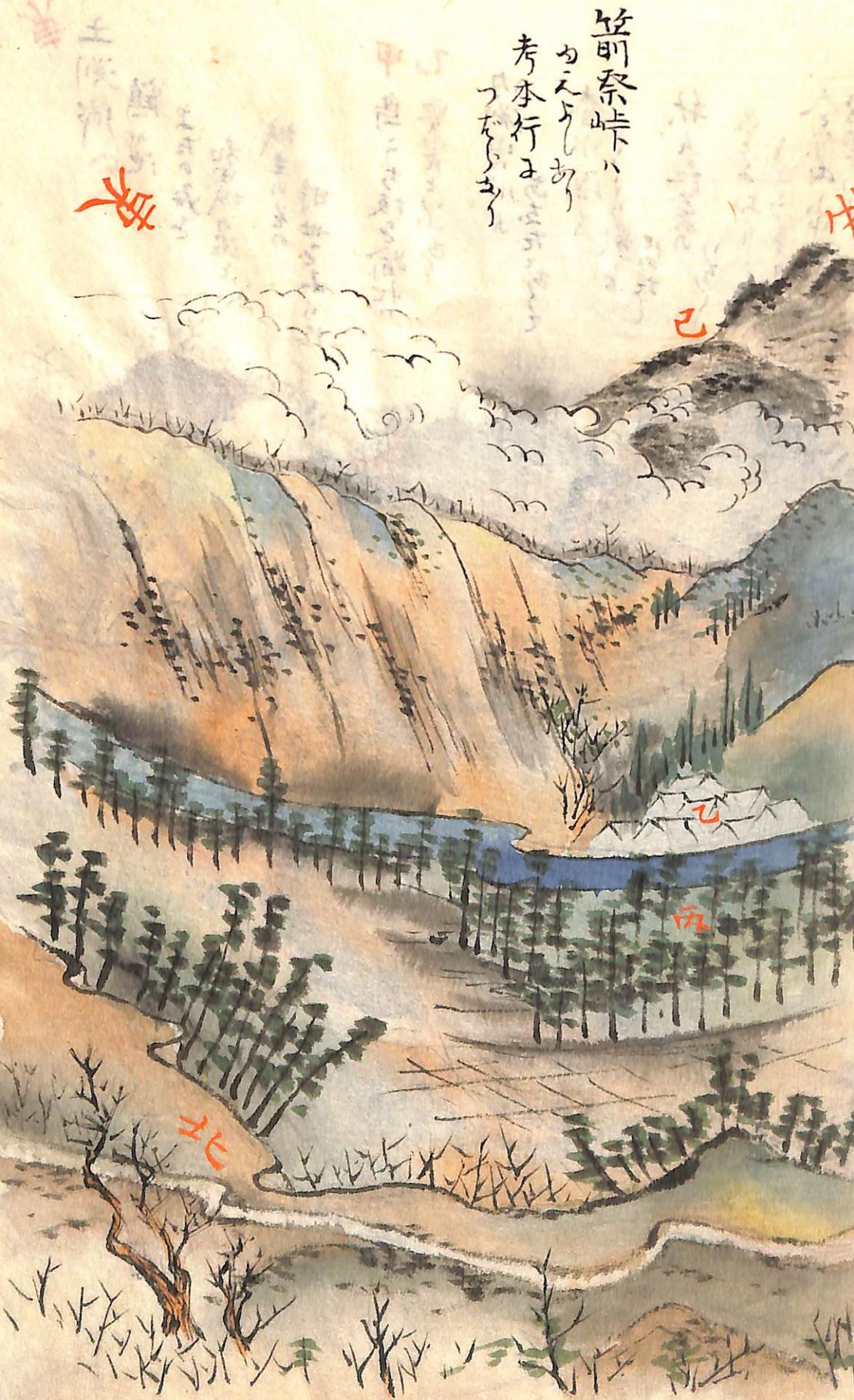
己

丙

丁

乙

丙



火

土渕郷

鶴が池

またの名を

和田城の沼と

城主の名を

時世をあらわす

甲 鳥うち坂を踏れ
乙 要塞といふあ

内渕山川の

ああたであと

春水深く

さくら景を

秋も紅葉の

りちく

人を山中で歩

ひたし

火

火

火

火

火

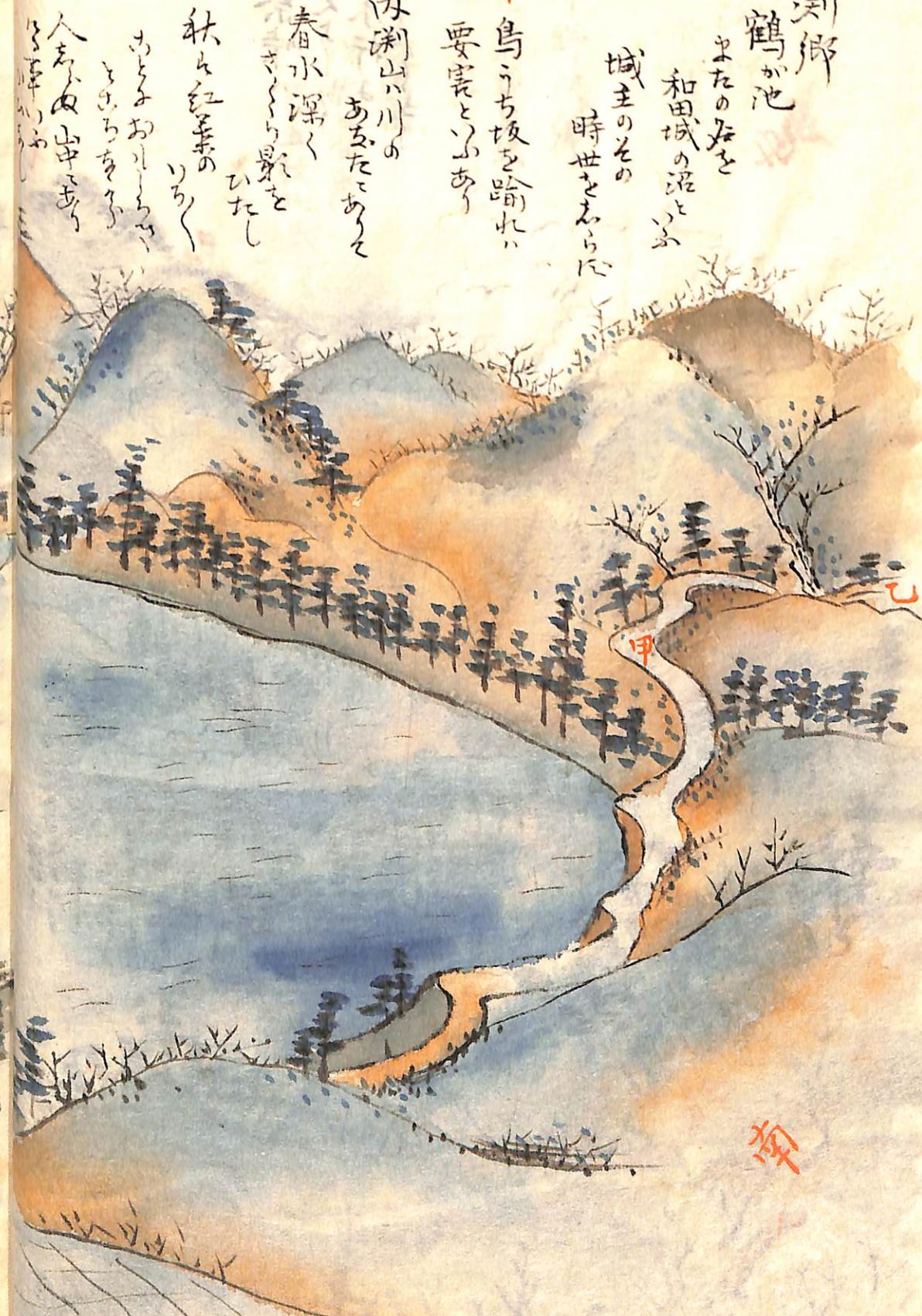
火

火

火

火

火



土端郷 根子村

照井小筑前某の旧館充松

此家よりある人こそその子ハ常とたうす
外堀の跡ハ田又成り此松女と化てせまうでせうる時
三とせ枯れた草木行みつたらち秋此松の下よくさく
茸生えどい 小筑前り赤い照井六之尉といひて
支母今在と



甲



甲

土端郷
根子村

丁酉廿九日
大船
日本画
写真

土渕郷

四木邑 吉城

(集)

甲 大館

城主いがため人と
事ことを

乙 馬出し土堤おと

ケルくわと
ちかし

甲



此古柵このくさ並栗邑

古里正小田島市郎兵衛

忠朝ただあさ内宅

今ノ官舍

後の久々

之大おほき城山じょうさん

小田島平清一六四水印

繪畫

小田島平清一六四水印

小田島市郎六周古宅の庭の
駄檜根

此木は高木様天文のころより
御つましを古木のつたへ
あり此木のあきとよてさわら
木と村の名とあります今
四木とふ字作れど人を
さわら木とせざる



あーくらや三

平野澤邑

二

あらゆ 平野澤郷

二

里正 並同

○平野澤平野比良五とハシミヨリテナラニ此平野澤、枝御分村
あハキ村並て一郷トニモアガリ比良は深ヒツカニ

相野邑

家貞 古十三軒
今六戸

○山間の野良ヒツカニ舍の野相の山リ申セトニカニテナラニ
目川カ流メ板橋町土岸と平野澤の境を也アリ

岩野目邑

家貞 古十軒
今七戸

○相野毛う岩野目邑通エ板橋町此流を岩野目川ヒツカニ

○田神ノ社 翁日四月十二日十二月十二日 斎主 部中諸家

○此あたりの諸氏ヒツカニ其神も山と庵ハ山神と申セトニシテアリ大山祇
の神の事と申スアガリ寺ト諏訪明神タシム春日明神稻荷明神女房明

神と唱へ奉つ

山

鑄處に神を山の神と申すまもつ

いふ

し

家貞

今

ニナニ軒

○檜澤邑

家貞

今

ニナニ軒

○檜沢と檜沢と詠かき書く旱魃また火災をすゑておみ禁に檜木山の
宇すゆれと檜木と火避の禁をゆて良材の最上を秋田郡馬場野
目次内す檜沢とふ村ありすが不祥りふぬとて水沢と改名す
大木とふ村ありよき事のむらとて大沢と改めらばさうす事あつとい

此檜木沢の内す村す

上三明岡三戸

下三明岡三戸

中島大产

○藍婆神社 三明岡に在り

今

日

齋主

興五在閣門

藍婆ハ十羅刹一神の在くゆきや、陀羅尼品を委曲と見えた此神、
八木木立上溝の郷中野の内赤野に在りて是外は多々陸奥の
山間より祀た羽の神在ス梅林山にらむばとひ。革袋ナフ却くらむ事

○此名古ト古名の訛産の轉讀すりと考合せたる雄勝郡山内に有
此年歲足袋す而くら良とて名義を産サ

○山神社 奈日四月十二日十二月十二日 齋主 駿兵衛

○藥師如来社平野村武道川落合川上子碑 奈日四月八日 齋主 駿兵衛

○正念寺寺跡

○此寺跡を以て此處を寺邑ナドモア御取山正念寺西派本歎寺宗ノ開
基と釋る。恐と本寺草庵の如なり。が長禄九年九月十五日本山
寺号たまひて正念寺と號す恐南部の御取山ふ處す出づる地名
と號て山号とす。開祖了忍長亨三年庚午四月十日遷化一世辨祐三世了義

○四世辨覺五世辨教六世了惠七世弁道八世了覺九世善覺十
世未成十一世祐善十二世祖祐十三世祖丹十四世月觀十五世辨

應十六世現住辨隨と信若見之たり

○何盃邑

家貞古 四軒

某を斗りあて無盃子村名あら早の昇たな木ハ天木若猿田村
枝御子六盃といふ村也子モ八位山の神供朱を六盃を献る式ある云ひ
事事といひ小屋掛沢モ一町近きの中野又邑通ひ歲橋あり

○中野又邑

家貞古 三軒

中野又邑の出ロ吉谷地村は渡る武道りの流す歲橋也 晴淵といふ
銅麻淵もやだまくへそがちより吉谷長村といひ

○吉谷地邑

家貞古 二十一軒

吉谷地も本ノ葭谷地まであるから村口を雪車月と山本、卯の二井内
枝御子輪跡也同名を以てからむ止ど山一村通路の歲橋あり

○稻荷社 翌日四月十日

齋主郷中諸家

○狼坂邑

家貞古四軒
今三戸

○狼坂也吉谷地踏み小坂を上坂の名す狼坂狼坂也の名すしませ
仙巖子狼坂原とて甚の石産すほど武道村の行らふ路す歲橋からぬ

○武道邑

家貞古三十一軒
今三十五戸

○村口娘石子モ多名すある在ツ切信濃の娘捨山也娘石娘石小
袋石と云ひうばおほととこく云方言ながく村に歲橋からぬ武道
も本ノ葡萄多めに處の石也もあり武道の假字すや上溝、武道庵
村あり越後子武道柴却多ソテ石也

○山神社

翌日四月十一日十二月廿日 齋主 郷中諸家

○御免靈方水蠶樹膏桑也 與古とよも是を禁制外也

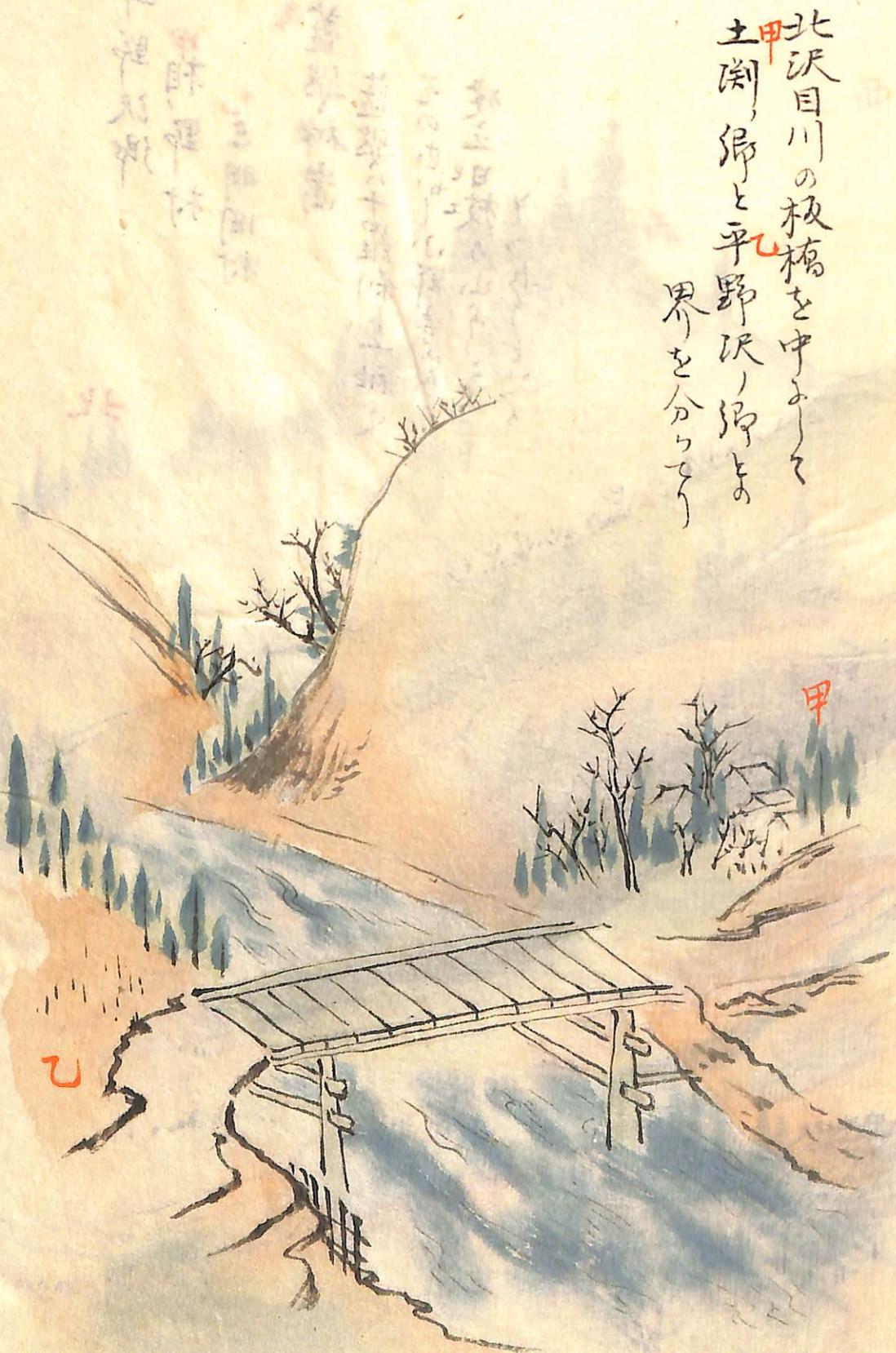
御免靈方水蠶樹膏桑也 與古とよも是を禁制外也

售之を以て山神様の市夢想といひやうと與ちあつてゴモサウと
いふ人ふあまくと能うやうが沙石集と油桶とあかの唱て瓶アブラヲケ
妹アマあさひと郡邑記云、雄勝、御湯野沢、武道村、小安沢、
奥助大郎は山境アシタカニにとどけ考る此道村の深コヤスと東アマツ
りと西アマツと山獄アマツを大日向山アマツナカヤマと小黄金山アマツをり此山の巔シキ
一日五枚アマツの料アマツあがねうねと塔アマツにて今そひ五枚山の名を残
うたる

○家貞

○人貞六百五十三

北沢目川の板橋アマツを中アマツす
土閭アマツ郷と平野沢アマツ郷と
界アマツを分アマツす



平野沢郷

甲相、野村

乙三明岡村

北

丙
藍婆神嵩

藍婆ハ十羅刹の神也
そのあやし小野寺の家の
建立日枝の山どううつ
まづやうとつ

東

西

南

丙

乙

甲



柳
村

篠
村

三



柳だし

筏村

三

里正並同

○ 筏上梓船般を以て作り萬葉集の真木のつまでも有りたるに五
十木^{カナタ}と見立す仙北郡^{コロヤマ}像村の枝浦^{ハシウラ}島場村^{シマニ}有りつゝ世もか
立派見り^{タツサバト}穴開^{アメカジ}とて大^カやうすく湖あり此處の筏を運んで^{カタマリ}舟^ヨを運びて水田^{イナ}を耕^{ハラフ}すを^{シテ}筏村^{ハシマチ}とて此^{シテ}名^{ハシマチ}也^シ外^ハ九箇村^{クシマチ}小御^{コノミヤ}を有^スる

○ 大場沃邑

家貞^{古十八軒}
今廿戸

○ 大場^{オホバサ}沃邑^{オホバタ}立沢川^{ミナモト}とて深^{ミツマリ}と三又^{ミツモリ}の落葉^キで西牽^ヒ
流す材入^{ハシマツ}柳橋^{ハシマツ}と板橋^{ハタケ}を掛^{ハシマツ}て子^{ハシマツ}柳^{ハシマツ}を生^{ハシマツ}す橋^{ハシマツ}
名^{ハシマツ}と云^{ハシマツ}續紀^{ハシマツ}よ塗^{ハシマツ}鷺^{ハシマツ}塗^{ハシマツ}鷺^{ハシマツ}塗^{ハシマツ}石^{ハシマツ}天^{ハシマツ}大^{ハシマツ}菅^{ハシマツ}屋^{ハシマツ}柳^{ハシマツ}沃^{ハシマツ}等^{ハシマツ}五
道^{ハシマツ}云^{ハシマツ}見^{ハシマツ}此考^{ハシマツ}と云^{ハシマツ}記^{ハシマツ}たる此柳沃^{ハシマツ}也^シ堤^{ハシマツ}

○水平權現とて本社ハ十一面菩薩の佛像を廟り此御神ヒルニ昇
水上大場沢山の界ニ平水山の鎮座ハあり山の宇を稱ひて神号トヒ
名トシムを恐リ也モサクテ字音に称ヘ奉る事

祭日四月八日五月八日十二月八日

廟主 横四郎

○山下稻荷明神此神社水平山の麓ニ座ハ有ラ神号をす

奉る事祭日廟主トシム

○新所是

家貞 古ナニ軒

○新處ニ移シタル村ノ表ノ奥ニ有ラ滝ノ板橋カツテ通ス山至キ

○山神社川向ニ水上除ヒツハ祭マセド 廙主 長吉

○伯耆澤邑

○あウ了伯耆某トシ久人住ツル事アサ九其人の鶴翁

村毛有ラ木々ニ南部の毛馬内ヲ伯耆畠ト村折アリ瀧カ
久人子也

○阿羅羅仙人社ニサシト仙人權現とて本社三間向東之小堂
二五年、山北三郡の領主小野守前伊豆守藤原道宣公、尊父也
シテ此仙人權現と陸奥、三和賀、郡の仙人峠、巖ノ御神形也
後醍醐天皇の御代ニ此平鹿御松林を遷し奉るも其の仙人峠
近事トハ不灰木石トシ昌彦也、と云カく其儀也、川流ナリナリ
大輪岡小輪岡モ而唐也此大輪小輪也ハ難事矣、御事也此
上ナリナリ許祖事也、その為モあり仙人權現給ひて財ノニ事と
化テ漢人ナリ其一屋をうばひテ親子共あらせんシ、おハ孝子ナリセ
ナリハ、難事モ其儀也、子の事も難事也、僕也ハ事も難事也

が縫い身あらすゑがれは臺うちあまつゝかくゆるもとれた神の序
ふじてそよひかへ鮭のみほり東庵御贋タチマツ献タチマツ其事
きて此節下鮭魚ハラダ禁ヒミツ禁ヒミツ飲食イニシ用ヨウ事モノ也モト
石階ミサカを三町ミクニを一升ヒキ坂中ハナカニ神門トリノ門此鳥櫛トリノ櫛西方ミキ稻
荷明神トリノ神社トリノ社古下庄大明神トリノ神社トリノ社此石門ミサカ石材ナガヤマ南江
助アシタカ運ハシムたる石シロを古縁ハシムありや元禄ハシムのから失ハシムたる
正徳四年ハシム高橋仙太夫ハシヨシ吉ヨシの記録メモリ見ハシム祭ハシム日ハシム之ハシム事
九月九日同十九日同二十九日此三九日ハシム神事ハシム

○下庄大明神社トリノ神三四面ミツミツ祭ハシム日本社ハシムと芳ハシム賑ハシム之ハシム十二月二十八日ハシムのハシムたす
潔癖モハツ本社ハシム夜籠ハシム正月五日ハシムまで村氏ハシムあるやハシムニシモナム
神事ハシム式ハシム別當高橋太仲ハシマサ膳ハシマサ清尚ハシマサ上祖仙太

夫某延宝七年五月廿八日故ハシマサ二代仙太夫某實永二年二月廿日三代仙太夫某
室曆五年五月四日文化十三年三月二日火災ハシム古莊錄燒ハシム先ハシム傳ハシム之ハシム
四代目ハシム三代の間實名知ハシム七代大隅守清行寛政十年二月廿
八代母後正清房文保政八年五月廿八日九代多門清成同年六
月四日十代當司官高橋吉郎清尚

○一跡渡邑

家貞ハシマサ古十軒

○此一渡ハシムとあるハシムあるハシムよ多ハシムと二度ハシムと三度ハシムと
五度ハシムと六度ハシムと七度ハシムと八度ハシムと九度ハシムと十度ハシムと
ふたト日ハシムかたひうりよりおこつた此一渡ハシム寺ハシム

○頼信寺 一向宗

○當知山頼信寺ハシム本山東本願寺中山仙北郡六郷村大悲山真光寺

○開基岸誓天正二年甲戌二月十日遷化。一世岸賢義應二年癸巳正月二日化文化八年三月十一日回錄をあひて寛室過去牒ウセにて。三世ミツシテ七八世歴代法名知れず。十二世了賢、文化二年十一月九日。當時十三世現住寛了ミツナリ。

○大堤邑

家貞、古八軒
今十三戸

○大堤小堤某壠某壠をどどと堤と云々。秋田城下、賊地十三村、故も堤と云々。有三事。三代實錄見之。

○三十番神社。末社春日大明神。本社西山ニシヤマ在。

癸日本末社丙四月八日九月八日別當佐藤伴豫太夫もしく此神社を大銅三年の草創イハタツとす。やあま。神木カミキ兩义の大杉と人尺ヒナチの中コトハ斗トドバ周回八尋ハシナリ餘ヨリ雄勝ヨウセイ郡常法寺ノホリ古

杉同郡役内嵩下古杉カヤをもく劣アラシ生スル。か常は寺より杉を切り、
いは庭八枚をもく嵩下の下シモ杉イ伐ハサウ口ヒ中廣カタハラ一丈五尺亘りスル。此兩本千五六百チハシ年及シテと雲文クラモトの言ハシマリをかぞカウて是れと知シテ何處ナシ古木を空スル伐ハサウたゞシテ事ハシマリを老人のよシテと哭ハシマリとつシテその二本の杉イ伐ハサウ者ハシマリ者ハシマリをうけしと傳ふ。三十番神の齋イヌギ杉イをくの耳アリを壓シテあるシテのが小田島忠朝ハシマツヨシが元和八年夏四月カキ書シ。三十番神の縁記ハシマリ當ハシマリの郡代小野寺景道朝臣天正三年夏深山獵ハシマリ一々日暮ハシマリ幽谷ハシマリ道ハシマリを多迷ハシマリひととくハシマリよもよもハシマリで多く人ハシマリをうちハシマリてハシマリ後ハシマリ美ハシマリつハシマリし美ハシマリつハシマリ一宇ハシマリを建立ハシマリ。龍燈三十降ハシマリの神靈ハシマリを三十番

神と申す奉りて今在御神是こそと天正四年四月朔日を始まること見えたり志らまちくより此二時のれと天正三年のあまに大同の年此番神を奉り奉り一時深くよとて詫行のあまとぞ得をもやすく天正の年は年創もや天正の年とひだり此山は地主の神やおとせかに才年からぬをわゆすもの地主神は春日御神あことみて今と赤社とありおましませるゆのうやあらはれ事之○南江嶽此三十番神の山とうちありひて祭日九月三十九日あたる三十番神ひしとその峰と芳野すあぐらにて藏王権現をまつ別當佐藤作豫太夫

○司官佐藤氏代と作豫太夫とて歴世たちあらそと伊豫のくみうとあひとつをひりよ知りし當時五代作豫太夫常正之

○正一位田中森稻荷大明神 番目

齋主 賢右衛門

三森山の麓田中社ミタケヒロハシとまざる名をひきみやうらの蘿園文集大友吉善家著稻荷大明神社記出羽国平鹿郡横手山内之内茂村鎌座稻荷大明神社ミタケヒロハシと三森の麓田面ミタケヒロハシの中ある小森ミタケヒロハシ、四至境ヨミナカヒゆえ里限て木立昂ね森の内ミタケヒロハシてうな白狐シロキジの住ミタケヒロハシ此社宇走播磨神の御使者ミツウカヒロハシと山城玉藤森ミタケヒロハシうつる年ミタケヒロハシありともかつて形ミタケヒロハシを現ありすとちとを、社守ミタケヒロハシのよ一葉間ヒトヨリハシ一度ヒトドリハシもかがや形ミタケヒロハシを現りて見えたりとすと、社守ミタケヒロハシのよ一葉間ヒトヨリハシ一度ヒトドリハシもかがや形ミタケヒロハシを現りとふ凡て此のいぢの田地の字をハ稻荷ミタケヒロハシといひす。天正のうち横手の城主鷹狩アサヒシキ萬白狐シロキジの主瑞ミタケヒロハシあり若すあすといひ付ミタケヒロハシたる

此御社の由緒は、つねに御世所奉る人の裔を祭りしも、始め
上りかせ事、實千鳥の跡、始より事あれ、委曲を知
ヘキ。すれど里俗の言ひ傳説を述す、山城の藤本林より裔
奉す神靈を此三森林の南の森ある峰より移奉りて宮柱
太敷三鎮のあらじゆき川薦の乱れを、世間よつて衰廢
て社の跡もあく迄、果をもとく知人があくて追尋し。天正五
年四月十一日横手の城主小野寺遂江守義道朝臣筑波
よ鷹狩し給ふ自帝手すすむ。鷹鳥の不意く手放にて雲
隠飛翔りて捉寄術を失ひ、拜首朝臣我をと鷹を失ふ。せ
とすひひさらあり、山賊のかづくしをいあまお車りをしたが
名前がひきのをすめゆかみ鳥羅張、守部をすゑてあくと捕

獲てあすきと、ナドく怒れ。市勢ひそを宣ひけるをとがす
うちよ漸、入方より行、夕日の古志ウヌリ、木立、蟻
ヨリテ小僧ナラキ、走ちする山澤アラ、頭ヌキたゞ見つる鷹ハ三森林
の南の森す小僧の梢モそをす。わざわざてうやすく立ちかか
ゆる快いりなし、すなやく、とひひき、甚すけに白狐の森
の木陰ニ草、躍て鷹のうをそ、守りをきてそ、うせし鷹の姿
すくをかすし。此白狐の事ハ珍るをもとより、其狐ハ立かず消
え去るを。然る三森林の景、山城の藤本林子似合て有り、其
ハ済き由緒す。やと里俗を尋問せ給ふ。八十餘歳の翁の云
え、すなやく、天智天皇の大御世の山城の藤本林子似合て有り、其時供奉せし白狐有りて住
此三森林より移奉り去り。其時供奉せし白狐有りて住

る白鳳二年と云ふ優婆塞役小角南御の嶮岨荒山中を聞
キ時先駆せきと語りはなすと云ふ善道朝臣少し食飯
ウセ給ひて小縁の車よりばかりふ靈異有ゆ處北の跡絶ゆ出是甚
畏々として御奉仕べま車を何くかと事もさうして帰ふを給ひ
タゞ其夜の曉よ萬移兵部とあるの夢乎甚萬貴人の枕の許よ
たゞ之寄りりて我と昨日形を現ハせる白狐有福荷の御舍を
修造て御奉仕も云ハ我リまた殿の行末學を壁も車常盤堅
衣よ幸ハシテ然ニ三本林の鳥射、上牒、赤い障子車つれ、社
田中の木橋ヲ建アレとちの畢、夢覺めタゞ夜をゆと明をれ
急き横手よ行リと夢の論行リと車を申乞す善道朝臣神の
惠の恩うかがりと車を奉らうれこむりて其やうの九月廿日

自田中の木橋を發向共治ひて廢れたる神所を起丁美頭御金稱辭
竟奉了て塗繪の廻を詮古車をすきかくて御戸代田富高
を寄附よと絶すと神事とも迷てハ余年日も九月廿日
生日の足日と齋定て毎年の祭典リ怠情をかゝりと慶安の寺竿
木御戸代田富高公田をすれ正徳の神社境内ナシ説く俄
おとぎをのうの田子社の名残りし自然消失する事を有此社の事
執る高橋兵部後胤今のかねに御在席りどりく慷慨男ひての聲
言述語を継へ古事を書而て遺れず失せたりや遠永み後世
可付あ事を知るまへ心の眞實をぬれん黙止かく
て准ナラ家ナ付へ古事のまゝく詔つ文化十四年夏五月
十七日大友對馬ニ藤原吉元と見ス

○穴渕邑

家貞 古
今一戸

河邊郡岩見山内枝節ハナツクの穴渕邑あり此立谷川の流
す穴渕とて大なる渕ハラカニにて木を仰ぎ岸を詫え土をもて
運水イナタを塗ヒラフさたゞさる而諸より自然落す材の名を負り
さうされ此穴渕を篠村ハシマツの名ハシマツすかタハ七三郎セトヤト
と云ふ今りまた五市石廻シロツキと云家一戸也

○大穴邑

家貞 古
今七軒

同流す成橋ハナハシ有此邑の西南よりて澗の渕山とて高ニ丈ある澗
南に穴ハラカニて落つ見ハシマツて處又古鞍ハコの跡ハジカニ古寺の跡ハシマツあり由来を考へて
○伊賀膳稻荷大明神

齋主

興右衛門

此渕石廻シロツキ上祖ハ下野シモツキ支ハシマツ伊賀膳元郎宣道ハシマツと云ひ武吉ムサキ也

矣あり下野シモツキ大金山とて猪鹿獵ハリタケの山ハラカニすたの歎追ハラカニいやが
逃迷ハシマツすわらず白狐三郎宣道ハシマツを自かけ走ハシマツせ寄ハシマツせくご身
縄ハシマツのて度ハシマツア宣道窮鳥懷入ハシマツ思ハシマツをあすきの狐ハシマツいたゞく家ハシマツ帰
りおり極ハシマツお後の山ハラカニすなあつぬ此曉の夢ハシマツを髪白ハシマツく扇ハシマツの枕ハシマツ上ハシマツて
正れりまハシマツああやううり一ハシマツ年ハシマツを君ハシマツの助ハシマツかられハシマツよどいてうれハシマツし
嬉ハシマツきもく吾ハシマツ吉野山ハシマツ在ハシマツりが此西ハシマツ東ハシマツて生ハシマツしハ百四歳ハシマツ有
ぬかく此ハシマツ而ハシマツ是ハシマツあたがい奉ハシマツうて君ハシマツが行ハシマツ未ハシマツを守ハシマツもととかたがふ
ゆきよ夢ハシマツあとうちマハシマツぬけと新室ハシマツ新浪ハシマツあどか未ハシマツ流ハシマツや新田家
其屋ハシマツて文永五年ハシマツ陸奥ハシマツ和賀ハシマツ郡ハシマツを経て新田氏生
羽玉平鹿布大谷ハシマツ等ハシマツ難ハシマツ髮ハシマツて一向宗門ハシマツの寺ハシマツを建ハシマツてそが開祖
す今ハシマツの光徳寺是ハシマツ伊賀膳宣道ハシマツ赤亂ハシマツ土民ハシマツとて天正五年八月

五日同郡山下村より來ておのり家庄の後宇山の古木の前中ノ稻荷
社を建てかゝ八百餘歳の白狐の神靈を齋^ミキ^ミおつる。もとより大キ
やうちの櫛^ミ一樹生れたり下^ミ洞^ミあり。と人云々大穴^ミト^ミび^ミが
自然^ミ名^ミと^ミす。すきり^ミおのからかし主人の余^ミすを一向氣流^ミ
流^ミを吸^ミて坐^ミして住^ミつれ。ひづら祀^ミの齋^ミし白狐の社と^ミうちあざれ
て、あど^ミと^ミそれを知^ミる人がまれにあたひまくやう^ミ神祠^ミを^ミ堂
を^ミ建^ミて上^ミはす。あらう^ミと^ミきつ^ミがよく^ミ欲^ミす^ミ。う^ミ
○熊野^ミ社^ミ瀧^ミ津^ミの瀧^ミの上^ミ宿^ミ。祭日四月廿日^ミ齋^ミ主^ミ平右衛門
○植田^ミ野^ミ是^ミ家貞^ミ古^ミ五軒^ミ

○植田^ミ野^ミち^ミを植田^ミ野^ミと^ミふう^ミ田^ミ氏^ミも村^ミも多^ミくある在^ミす
○管^ミ神^ミ社^ミ川の傍^ミまぐの山^ミ坦^ミの庵^ミ。祭日^ミ齋^ミ主^ミ善^ミ十郎

此植田^ミ野^ミ對馬^ミ某^ミと^ミ濟^ミ浪^ミ人^ミあり。そ其男^ミ子^ミ善^ミ藏^ミと^ミ小童^ミ也^ミ。
人^ミ乞^ミま^ミり^ミ年^ミ習^ミふ^ミ。童^ミは少^ミり^ミぬ^ミ。清^ミ事^ミな^ミぎ^ミ。童^ミ心^ミ耻^ミて^ミ善^ミ死^ミ
十四年^ミ春^ミ正月二千^ミ百^ミ旦^ミ管^ミ神^ミの画^ミ像^ミと^ミ神^ミ酒^ミを^ミ奉^ミり^ミ。神
像^ミも^ミうひ^ミと^ミ我^ミづ^ミの^ミ。清^ミ身^ミつ^ミな^ミき^ミ。親^ミも^ミ世^ミを^ミぬ^ミよ^ミ。聲^ミ
い^ミさ^ミや^ミい^ミ我^ミづ^ミの^ミ。筆^ミ跡^ミつ^ミあ^ミ筆^ミハ^ミ心^ミも力^ミも及^ミぬ事^ミ
あ^ミた^ミだ^ミか^ミ。あ^ミる^ミか^ミふ^ミ人^ミ事^ミの^ミ書^ミ。身^ミ先^ミあ^ミいの^ミ道^ミ入^ミぐ^ミ給^ミへ^ミぬ
う^ミづ^ミて^ミね^ミま^ミこと^ミ。これニ千^ミ葉^ミの^ミ成^ミさ^ミ。下^ミノ^ミ神^ミ祠^ミを^ミ建^ミて^ミ寺^ミ神^ミを^ミ齋^ミ
奉^ミも^ミと^ミ。山^ミの^ミ明^ミれ^ミが^ミり^ミ。ある夜^ミの^ミ第^ミ二^ミ字^ミを
書^ミて見^ミよ^ミ。かねば^ミ筆^ミの^ミうち^ミす^ミあ^ミられ^ミと見^ミつ^ミ墨^ミす^ミ筆^ミと^ミれ^ミ。
管^ミ神^ミあ^ミふ^ミれ^ミ絵^ミの^ミを^ミくあ^ミく^ミ書^ミえ^ミた^ミ。見て^ミよ^ミ覺^ミめ^ミや^ミを^ミら
起^ミて手^ミひ^ミ神^ミ像^ミと^ミ礼^ミ拜^ミぬ^ミ。う^ミは^ミの^ミみ^ミさ^ミと^ミの^ミ妙^ミ一^ミ字^ミを^ミ書^ミ試^ミ

うすおのう等意あひをあ心あるうれし神のみぞとあふわと
日つよひやう手羽あひのよつとをく能書の名をえて二十歳の春から
菅大臣ミヤシロ神社を建てと此照井對馬トマシマ土列の根子す照井小筑前
生アキシ云雅樂介ミタケが家す生アキシと譜アカシ小筑前の方アカシあ
あドク仙北郡の安本村の照井增部之介アカシの家アカシ小筑前アカシの家
すの分流アカシすやまアカシ記アカシありと

○澤田邑

家貞アカシ古七軒

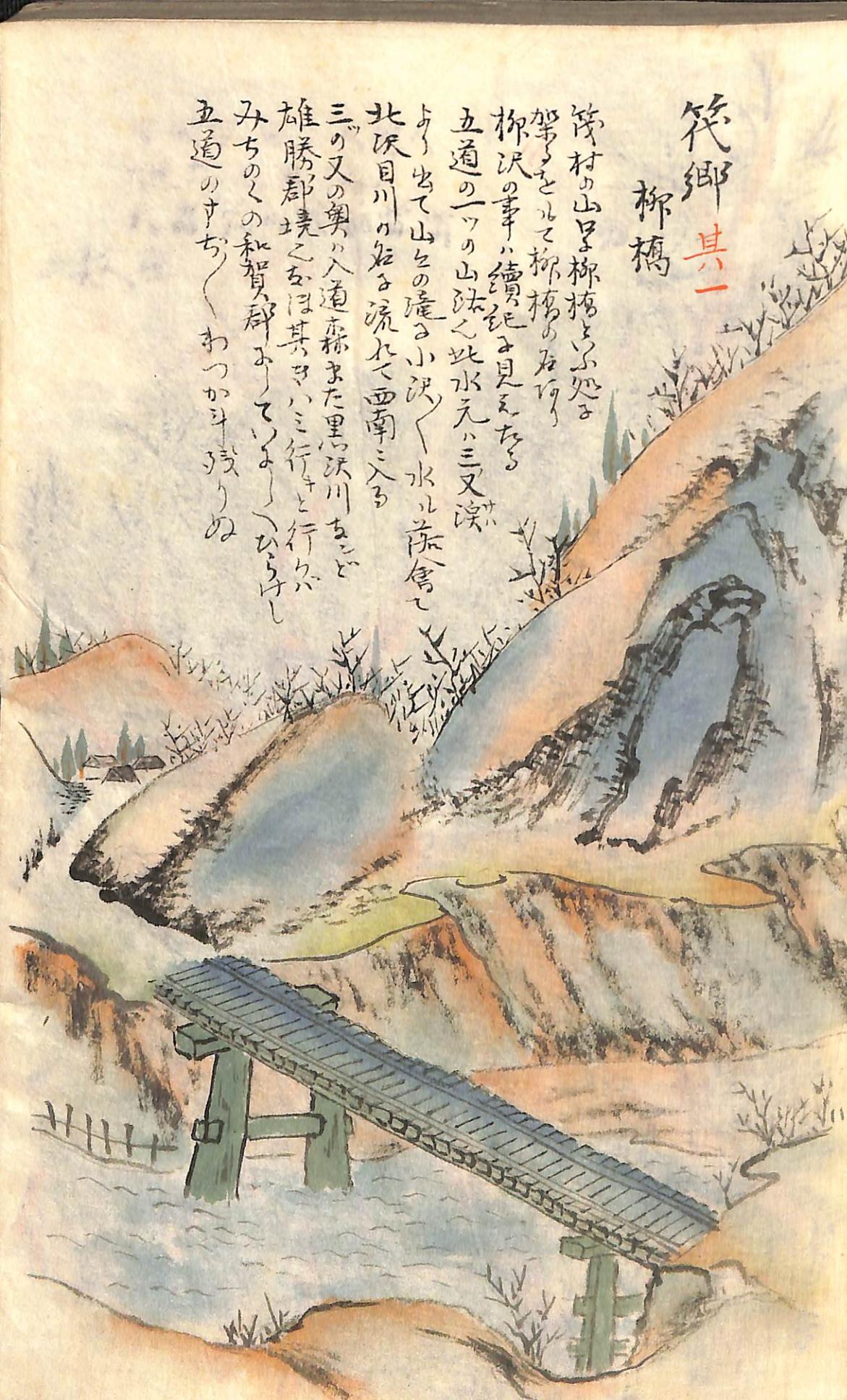
今

○草沢田山の麓アカシよ鳥居川を隔てかまくちあくす在り南にう嶽の麓
牆南鄉アカシ上小邑アカシりと近アカシ此あたうの人沢田を沢田とよき

篠郷其一

柳橋

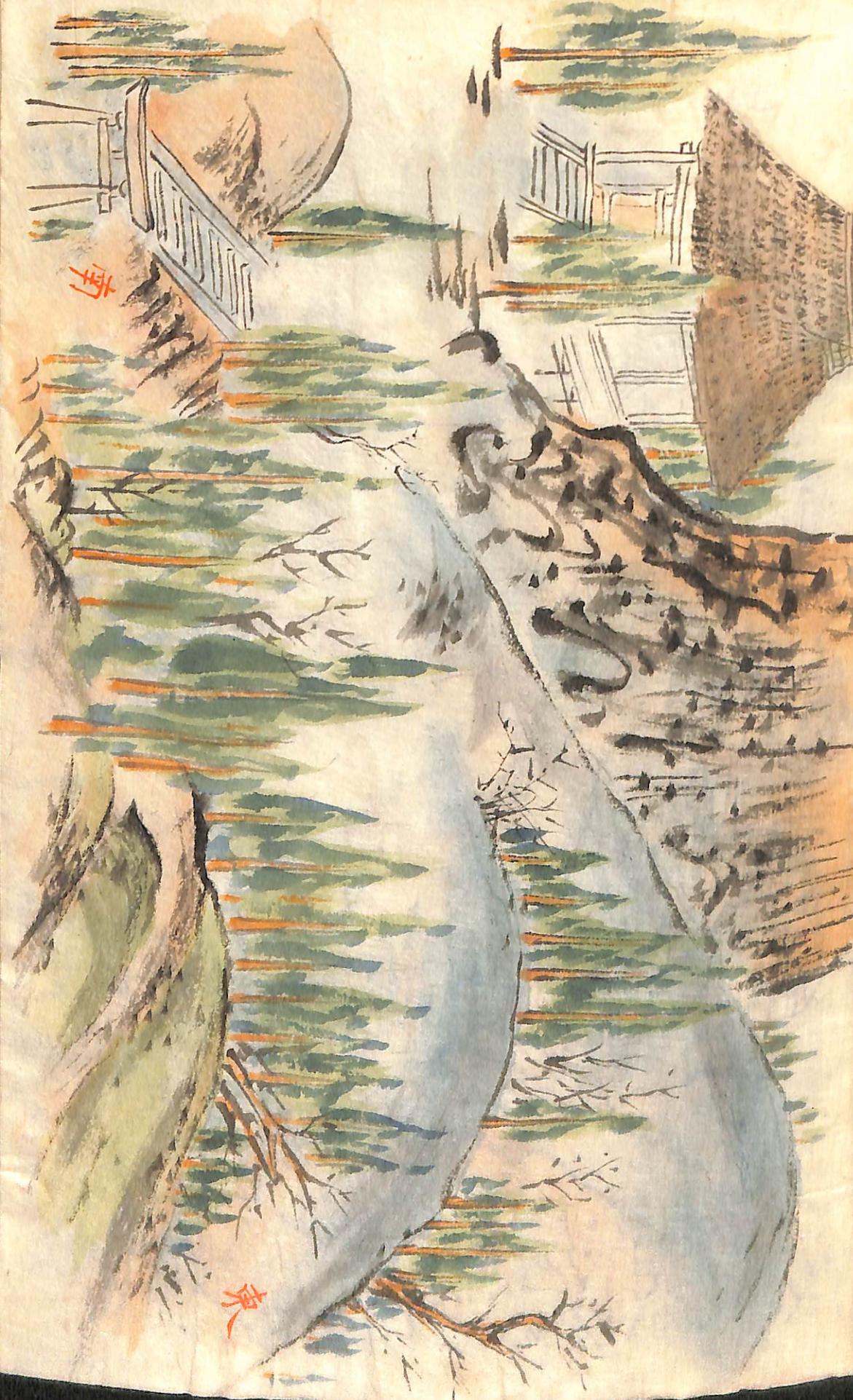
篠村アカシ山里柳橋アカシとふ處アカシ
架アカシとむて柳橋アカシの石アカシ
柳沢の事アカシ續記アカシ見アカシたす
五道アカシの一つの山アカシ底アカシ此水元アカシ三又湧
より出アカシて山アカシの底アカシ小沢アカシ水アカシ底アカシ舍アカシ
北次目川アカシ底アカシ流れアカシ西南アカシ入アカシ
三アカシの又アカシの奥アカシ入アカシ森アカシまた里アカシ次川アカシまこと
雄勝郡アカシ境アカシをほ其アカシまアカシ行アカシと行アカシ
みちのくアカシ和賀郡アカシすてアカシよアカシひらす
五道アカシのすちアカシあつか斗アカシ残アカシぬ



平廣郡第一大樹
奈良縣周圍八尋
大堤村三松番神社

伐御其二

田



竹鄉

其三

伯耆 沢邑

甲 仙人權現社

下居 乙 社 稲荷明神

東

南

北

甲

西



竹郷 其四

甲 沢田邑 乙 熊野社

戊

南郷山嶽南江村より
自鳳三年神変大菩薩

開創の峰といふ

竹邑より巽の方の中

峯、社向東藏王權現鎮座

丁

枯鹿邑を旗南郷といふ

此山脚より登り

癸未日九月ノ三十九日

司官 竹邑

佐藤伴預大夫

丙

山

甲

乙

西

北

東

山の丸たなご

南郷邑

四



山の左右に

○南郷邑

四

里正並同

○南郷南江より作り美濃國子南宮嶽カケと陸奥カケの鳴喧ナグヒ萬
石イシとみあひアヒる石イシと有アリ此南江嶽カケと高タカ大嶽カケと吉野ヨシノを
摹マジて藏王權現鎮座金峰カムラヒラ山ヤマすすむれハ白鳳ハシメトリの草創ハシメトリとシテど
築ツク三十番サンバン社サヘ開辟ハラフたす事後アフタすやさりとシテ大和ハセガワの芳
野アキの劍ソルトのを以テて人ヒトを白鳳トシ年中ヒナニもシテ佛ボク山ヤマとシテもシテい

○大平邑

家貲カホ古コト十六軒

今十五戸

○大平大平多タラ之此邑アマイの甘地ミドウヤとある一戸アマイ甘池ミドウヤ本トアマイ兩池トアマイて是アマイ
せありアマイよ多タラを多タラ甘池ミドウヤ甘池ミドウヤ本トアマイ兩池トアマイて是アマイ

○下南江邑

家貲カホ古コト十軒

今十二戸

○下南江より篠橋ススキを過スルて中島邑ミハシと通スルすちシテ也

○中島邑

家貞 古五軒
今二戸

○中島邑 三ツ屋材行平地にてと近く路

○杉邑

家貞 古八軒
今十一戸

○杉邑 雄勝川邑行是平坦りて小流筋筋

○觀世音社 今日四月十七日十二月十七日 斎主 五右衛門

○雄勝川邑

家貞 古十軒
今九戸

○此雄勝川山川の家多シ雄勝川と云
村仙北山秋田郡より雄勝郡古字雄勝村と云勝少勝小
勝をとも作す雄勝郡考へ宮の處と委曲と記す

○竹籠南江邑

家貞 古十一軒
今七戸

○竹籠中島邑多シテ有訴て此細南御邑に入

○竹籠南江邑

家貞 古十一軒
今七戸

○黃金峰藏王權現南御嶽嶽の座り祭日四月八日九月八日坐し檜
邑三十番神の奥院ありて三十番神奉祀同日別當佐藤年豫太夫
此幡南御邑多登る神階此邑多雲也石材を産てあらづ
つゆの作石堅實え雲碓石櫃石階よ良材ニ

○鹽匙邑

家貞 古二軒
今八戸

○是本塩匙也ちたる石之せ栗もよしとて穴あり栗以て走は
いを作朝茶飲む塩をすく此石耳のう言子耳コトバ
か実充掌、輪も何んやお、匙も飯匙もことりいて雅言此村
多高大天斗廣四天斗の石柱の庚申と名づれども自然不
可珍り卒都婆ニ

○丸志大臣

家貞 古二戸
今二戸

丸志太

スギヒト
スギヒト

スギヒト

スギヒト

丸志太 いぢる處をやた莖歯架 は好車家 車人のにてあつて され
えれに寒玉より裡白草すりそひ丸級を記わる あくも級2級の木
小豆茎お椿葉あすき 小豆茎を丸級と小豆茎2級といふ 雄勝郡と
級2級とひつて品地といふ事何と斜地をあら作す山城山糾
信濃の埴級更級をと級ての材石多ソサセ本ト坂をひつて古語とぞ

丸志太

スギヒト
スギヒト
スギヒト

丸志太木す 略移と云ひ此邑を入る丸志太木ち三野
又村すうつる之

南仰邑す 檜敷 板檜一 略移六 合七萬
家貞

人貞四百六十人

弓投嵩

○三又村

五

里正並同

○ニツ野又草保ウ次カ三又と改ムアガ云ヒ廻トキヨミニツノ又ト
ビニ跨ミシテ三山せナテラム石有此道の東南ニ桂陰ナテアア一中
塊木森ヒ小嵩山也シテ深水を塊除ヒ小東北の方ニ中テ松澤有此
松澤ハ如漢ナニテ塊杜ハ翁中ニ此ニツカ山峰ニシテ流會其水
曲有ハニツカ底の右流有村有モアシアア四ヶ村の枝節ヲニツ又ハ
鐵錦の名之塊木林モ近リツトテ弓投木森ヒ小高山也ニモ塊
森ラ弓投木森ヒ似リハノミテ塊木林ハ塊の形セシ高岳ニ弓投
ハシテ木民士の何をも弓投木森ヒ弓薙モヤアモモシハ後三年軍
名キ考古レテ弓投木森ヒ弓薙モヤアモモシハ後三年軍
ノ時深幕蒙朝臣ニちのくアリテは事終モアアリテ武士モキ

ちりて眉尖刀ナギナタを持て木草モクを打靡タマシせざりてい弓イハコを以て木草モクを
打タマシけあへ櫛刀タケナをぬいて未前ミサキをもひ右メシ太刀タケナチカニハカニとて
難ナギをひきを大將見給アモリマサてあもリアモリアモリアモリハテ姓草イサナ難ナギナすシタニと
長刀ナギ薙刀タキナ氏ナミキとて今仙北郡ソツクの率ソツク田タケ小太郎コトコロう祖ウツコロと眉券ナギナ一イチ草
難ナギとナギ長刀ナギを書シタニ白シロ衣ヒアリ右メシ馬タケが祖ウツコロと弓タケナと刀タケナとシタニ路シタニ
ナシタニ此草イサナ難ナギナとナギ薙刀タキナとタキナ字シロを表タマシ作タマシして給タマシ今ナシ草イサナ難ナギナとナギし
書シタニ左シタニ三ミツ合ミツの文字シロと櫛刀タケナ字シロ形シルをシタニアラト前メシト刀タケナをシタニ字シロ文シロと
此物語シタニあるよよりシタニ似シタニ

○二瀬邑

土シロ罔トナフ是シタニ二ツ瀬トナフと唱シタニ此シロ又シロ二ツ瀬トナフとシタニ之シロ歲シロ橋タケかシタニぬ東北シロ方
又シロ具シロはシロ此シロ見シタニ行シタニ成シタニ橋タケ三ミツを後シタニ並シタニ

○貝澤邑

家貢吉七軒
今西戸

貝澤雄勝郡シロ同居シロ村シロとシロ有シロ多シロ字シロ古本シロ六シロ都觀音シロ章
三所順禮託シロ云シロ地福長者シロ寔父者光頼真人シロ男天島頼遠シロ四男シロ甚
保昌房シロ父シロ貝天シロ三郎武道シロ次男シロ出家而号保昌房シロ諸國修業
紀州熊野那智山シロ參シロ詣シロ依觀世音利生三十三所シロ禮觀音大佛
師徒朝シロ爲造阿闍梨教圓開眼供養而本國シロ飯シロ云シロと見えシロ其
貝天三郎武道シロ此シロ地シロ也シロ居鍵シロナシロあり保昌房シロ住シロる人シロ大和シロ川
奥シロカ福萬山シロ存シロて字シロを保昌時シロヤマバタシロとて山島シロすシロアリと田シロといシロナシロ此
輩シロハ福萬邑シロの條シロ々委曲シロ記シロなシロ之シロ享保郡シロ記シロ子慶長九年シロ
本シロ國シロ上シロ中シロ年シロ仁右シロ與シロ上シロ者シロ初シロ移シロ云シロと見シロて此裝
品シロをシロすシロ入シロ住シロるシロあシロいシロとおりシロかシロ獨木橋シロと通シロ越シロ

○稻荷明神社 祭日四月十日十一月十日 神主 茂左衛門

○開邑

家貯

古三十三軒
今四十五戸

○郡邑記、家三十三軒寛永年中和泉守者南郷村移後田美濃守へ走進し開至付開村云々見元町開村を下り邑を下り五戸また大野村二戸西戸堤邑六戸小村多く築橋前後ノ石橋かくの

○山神社

祭日四月十日十一月十二日

神主

太政兵衛

○木田邑

家貯

古三十三軒
今四十五戸

○郡邑記云々雄勝郡岩井村内馬場申處尾張云者引越シ夫本田村云雄勝郡岩井村也上野村山境但て冷水沃甲沃峯隈と見之石ノ築橋かくの

○惣家貯

人貯四百十六

黒澤

○黒澤村

六 里正 幷同

○此黒沢邑の事享保郡邑記を以て、うちどもを見えたる。

○上黒沢邑

家貞 古今并十八戸

エキカミ

○上黒沢の石子沢であるを多岐橋にて往復せ。郡邑記北之南
部領湯田内管生村ト山^ミ境^フと見え。

○熊野社村の東南^{マリ}に在り。毎日四月十五日酉月十五日廟主長左衛門

○中黒沢邑

家貞、今二十二戸

○田代沢天狗森^{アサヒロ}、中黒澤の字也。田代沢村郡邑記家貞古軒東方
南御湯田内管生村ト山^ミ境^フと見え。天狗森村同二軒。天狗森今三戸。田代沢今七戸也。

○觀世音社、癸卯四月十七日十二月十七日 斋主長左衛門

○下黒澤邑

家貲 古ニナニ五軒
今ニ二十二戸

郡邑詣下黒澤村東方南部領和賀郡陽田村内菅生村井
領水境山ミタマ境と見えた南江村越マツシテ木の角ヤクをあさアサせた

を橋ハシ

○白山姫社村の山東王座ノミコト翁日

家主 八尋周

小松川邑ミズカワ下シテの橋ハシニタマセアサせた

○土里村

里正

左近也

小松河邑

七

志らむ

○小松川邑

七

里正并同

○此邑ニ素北ノ中ニ白木峠有此峠ニ麓有村ニ黒泥リモ
一里下リテ小松川又名之郡邑記ニ東方南郭飲和賛
郡邑中相ノ七曲リト云山境南郭街道有寺領白木峠
閑看所有、と見之矣

○山神社

癸酉日四月十二日壬寅月十三日

裔主十郎左衛門

枝御行スモ李原と小李原二行ノ枝橋を立ム

○李原邑

家貲古二十軒

○李原李屋李沃

モリヒルニ有在

○山神社

癸酉日四月十三日壬寅月十四日

裔主佐平治

○山神社

癸酉日四月十三日壬寅月十四日

外山ノ社の豫ノヤヤクニシテ

○此社地ニ大木及七葉樹有

トチノヤナギナツマツノツバメノヤマツノヤマツノヤマツノヤマツ

外山ノ社の豫ノヤヤクニシテ